

## 三次元モデル作成と顔の特徴点座標抽出

B4 田川幸汰

## 1 概要

進捗報告として三次元モデルの作成と顔の特徴点座標抽出を発表する。 三次元モデルの作成、顔の特徴点抽出を達成するために用いた技術と、その結果を以下の章で説明する。

## 2 三次元モデルの作成

三次元モデルを Blender のアドオンである FaceBuilder を用いて作成した。

#### 2.1 FaceBuilder

FaceBuilder は、人間の顔や頭部のモデリングを簡単に行うためのツールである。FaceBuilder を使用すると、写真やビデオから自動的に顔のモデルを作成することができる。また顔の形状や解像度の詳細な調整、テクスチャの適用など、モデルのカスタマイズもサポートしている。他の Blender の機能とも連携し、リグやアニメーションの作成など、さまざまな作業を補助することができる。FaceBuilder は以下のように使う。

- 1. FaceBuilder のタブから [Create new head] を選択
- 2. 下絵となる写真を一枚以上 [Add Images] より追加
- 3. open した画像を選択して [Align face] を選択
- 4. 顔のラインに合わせてメッシュを微調整し [Create texture] を選択
- 5. 様々な3次元、2次元形式でモデルやテクスチャをエクスポートする

#### 2.2 実行結果

### 2.2.1 入力画像

入力として、今回は図1の1枚の画像を用いた。



図 1: 入力画像



#### 2.2.2 出力画像

出力された 3 次元モデルは **図 2** である。正面はきれいにテクスチャが貼られているが、側面、裏面は画像に写っていないので貼られていない。複数枚の写真を用いて側面を描画することも可能であるが、顔の正面に写るマスク部分の描画であれば、顔画像一枚でも問題ないと考える。



図 2: 出力画像

#### 2.2.3 頂点座標の出力

blender のテキストエディタで python コードを記述し、作成した 3 次元モデルの頂点座標を出力する。図 3 は blender の 3d ビューを表した図である。lender の 3d ビューはシーン、コレクション、オブジェクトといったように階層化されて いる特徴がある。python の bpy ライブラリを用いることで、3 次元モデルのメッシュ情報にアクセスできる。メッシュ 情報には大量の頂点座標がベクトル形式で記述されている。

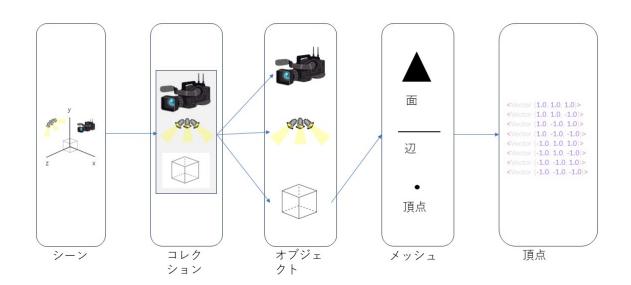


図 3: blender の 3d ビューのイメージ

図 4 は実際に出力された頂点座標を、python の matplotlib ライブラリを用いて 3 次元座標空間に出力した図である。なお、頂点座標は X,Y,Z 軸ともに正規化は行われていない。

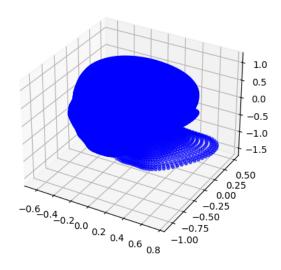


図 4: 頂点座標

## 3 顔の特徴点抽出

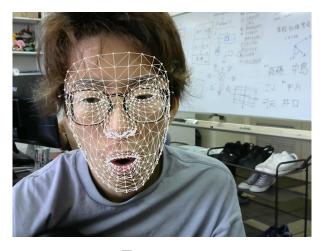
Google Mediapipe の FaceMesh の機能を用いて、顔の画像からフェイスメッシュを作成する。

### 3.1 FaceMesh

Google が開発したリアルタイムの顔のマーキングシステムである。FaceMesh は、ビデオや Web カメラの入力から、顔の輪郭、目、鼻、口などのさまざまな顔の特徴点を検出することができる。また、深層学習モデルに基づいており、ニューラルネットワークを使用して顔の特徴点を予測する。入力画像またはビデオフレームを FaceMesh に渡すと、顔の特徴点の 3D 座標と 2D 画像上の位置を返す。これにより、顔の構造や表情の解析、AR(拡張現実) アプリケーションの開発などに応用される。

### 3.2 実行結果

図 5 に FaceMesh を実行した画像を示す。このように顔上の特徴点を得ることができている。また、座標点を取得す



▼ 5: facemesh



ることもできる。なおX,Y,Z軸は正規化されていることに気をつけなければならない。

# 4 研究計画

現時点で進行中の研究や、次回の発表時までに勧めたい研究計画を以下にまとめる。

### 進行中

- マスクの有無による顔上の特徴点の検出の違い
- mqo 形式の 3 次元顔モデルを FaceMesh 上の特徴点に合わせて貼り付け (モデルと facemesh の座標合わせ)

### 次週以降

- 顔上の特徴点を用いた類似研究の論文の査読
- 3次元顔モデルの貼り付けの修正
- facemesh の Z 軸がどのように正規化されているか調べる

# 参考文献

[1] 小池 泰景, 「同一人物の正面の顔を用いた StyleGAN2 による顔のマスク領域の補完」, 情報処理学会第 84 回全国大会, 2-279 2-280.